

---

## 研究活動報告

---

### マレーシア第7回国際公衆衛生会議2018

2018年8月28日(火)から30日(木)の期間、マレーシア・セランゴールにおいて第7回国際公衆衛生会議2018が開催された。この会議は、国立マレーシア大学(Universiti Kebangsaan Malaysia : UKM)の主催、マレーシア保健省およびクアラルンプール大学の共催により行われ、「IR 4.0(第4次産業革命)と新しい健康パラダイム」と題するもので、マレーシア以外ではクウェート、英国、インドネシアなどから参加があった。筆者は「アジアにおける人口高齢化と介護ニーズの高まり-その課題と機運」というタイトルで講演を行った。

マレーシアの合計出生率は置き換え水準程度の2.11であるが(2010~2015年)、今後2020年には65歳以上人口割合が7%を超え、その25年後には14%に達することが推計されており、日本同様のスピードで高齢化が進行する。イスラーム規範の中で家族の重要性を強調しながら、どのように急増する高齢者の介護ニーズに答えていくのか、関係者の意識は高かった。5年前にマレーシアの家族計画担当者と話した際には、マレーシアでは介護保険などは必要ない、なぜならばインドネシアからのメイドが多く、安価で雇用できるからである、ということを言われたが、今回は、インドネシアからの家事労働者の入国には制限があり、また中産階級の若いカップルにとってフルタイムで雇うのには経済的な負担が大きく、介護ケアをどうするのかは大きな課題だ、という声ばかりであった。人口高齢化のみならず、女性の社会進出などマレーシア社会は急速に変化していると感じられた。

会議の内容は、<http://www.pubhealthcollo.org/pubhealthcollo.asp>より閲覧できる。

(林 玲子 記)

### グローバル・エイジングと高齢者の人権に関する 第3回アジア欧州会合(ASEM)会議

韓国・ソウルにおいて、2018年9月5日(水)、6日(木)に、グローバル・エイジングと高齢者の人権に関する第3回アジア欧州会合(ASEM)会議が開催された。アジア欧州会合は、アジア21ヶ国、欧州30ヶ国より構成され、アジア・欧州両地域の協力関係を強化することを目的として、政治、経済、社会・文化を柱とする様々な活動を行っているが、2015年より高齢者の人権に関する国際会議を開催しており今回が第三回目当たる。会議の主催は大韓民国国家人権委員会および韓国外務省であり、ASEM各国の関係者、および国連、ASEANや国際NGOなどが参加した。筆者は「人権からみた介護および緩和ケア-日本の現状と経緯」と題する講演を行った。また会議と並行して今年開所したASEMグローバルエイジングセンターの第一回運営委員会も開催された。

大韓民国国家人権委員会は、国連人権理事会および国連総会決議で承認されたパリ原則に基づいて、2001年に法制定された人権擁護のための独立した公的機関であり、人権についての知識を広げるとともに、人権侵害に対して法廷よりも迅速に問題解決を図るよう活動している。世界的には2018年8月8日時点で122ヶ国に国家人権機関が設立されており、設立されていないのは日本を含め、米国、中国、北朝鮮、サウジアラビアなどであり、少数派になりつつある。今回の会議には、各国の人権機関